



フクシマの子どもの未来を守る家

ニュース No. 36 15/01/21 発行

* 餅つき交流会 @2014年12月28日(日) 美原町公民館 *

2014年12月28日(日)「守る家」主催の餅つき交流会が開かれました。

参加者は、鶴岡市に避難しておられる家族(1組)、福島から来て下さった親子(2組)、「守る家」サポーターやその家族、友人等、大人27人、子ども12人総勢39人と賑やかに行われました。

9時半、会場の美原町公民館に集合、もち米を蒸かしている間、鶴岡に長期避難している家族、原発事故当時高校2年生だった3人の山形大学農学部学生サポーターさん、原発事故当時は中学生で、兄と二人山形市の知りあいの所に避難、その後小国の基督教独立学園に入学、現在2年生で寮生活を送っている佐藤美菜さん、以上5人の方に◆原発事故が起きた時の状況について(自分は、家族はその時どうしていたか)、その後どう行動したか、◆事故直後からの避難の経緯や、現在に至るまでのことについてお話をいただきました。

まだ小さかった子どもを抱えて避難することを決断した家族、原発事故で家族ごと福島県内で転居し高校を転校、進学で悩んだこと、数日間親と連絡がとれず不安感の中、妹と二人で過ごした経験、放射能の拡散状況も知らされなかったため食糧の買い出しに外出した事、お母さんとアメリカまで行ってフクシマの現状を訴えたこと(佐藤美菜さん)等、生々しい体験談を聴かせていただきました。お話ししてくださった皆様、ありがとうございました。

もち米が蒸しあがり、いよいよお餅つき!

山形大学農学部からお借りした臼と杵で、大人も子ども達も順番に餅をつきました。

11月29日「いのちと放射能」講演会でもお話して下さった、福島で子ども達を放射能から守るために奮闘して来られ、また原発事故が起きるまでは、福島県の川俣町ですと「自然農」をやってきて「年に2~3回は餅つきをした」佐藤幸子さんもお餅つきを楽しみに福島市からお越しになり、手際良く餅つきの介添えをして下さり、また、子ども達に餅の丸め方を教えて下さいました。

5升のお餅は、庄内風雑煮、あんこ、きなこ、大根おろし、あべ川餅、そして福島のじゅうねん餅(エゴマを擦って味付けし餅にからめる)にして美味しくいただき、参加者一同お腹いっぱいになりました!





餅つき交流会後半では、福島のお母さん、佐藤幸子さんに先日の講演会では十分聞けなかった「フクシマの今」について再度お話をさせていただきました。
◎福島では、本当は県民全員が原発事故の被災者であるにも拘わらず、指定避難区域とそうでない区域で線引きがなされ、そのために賠償金等格差が生じ、住民同士がいがみ合うという悲しい現実があること

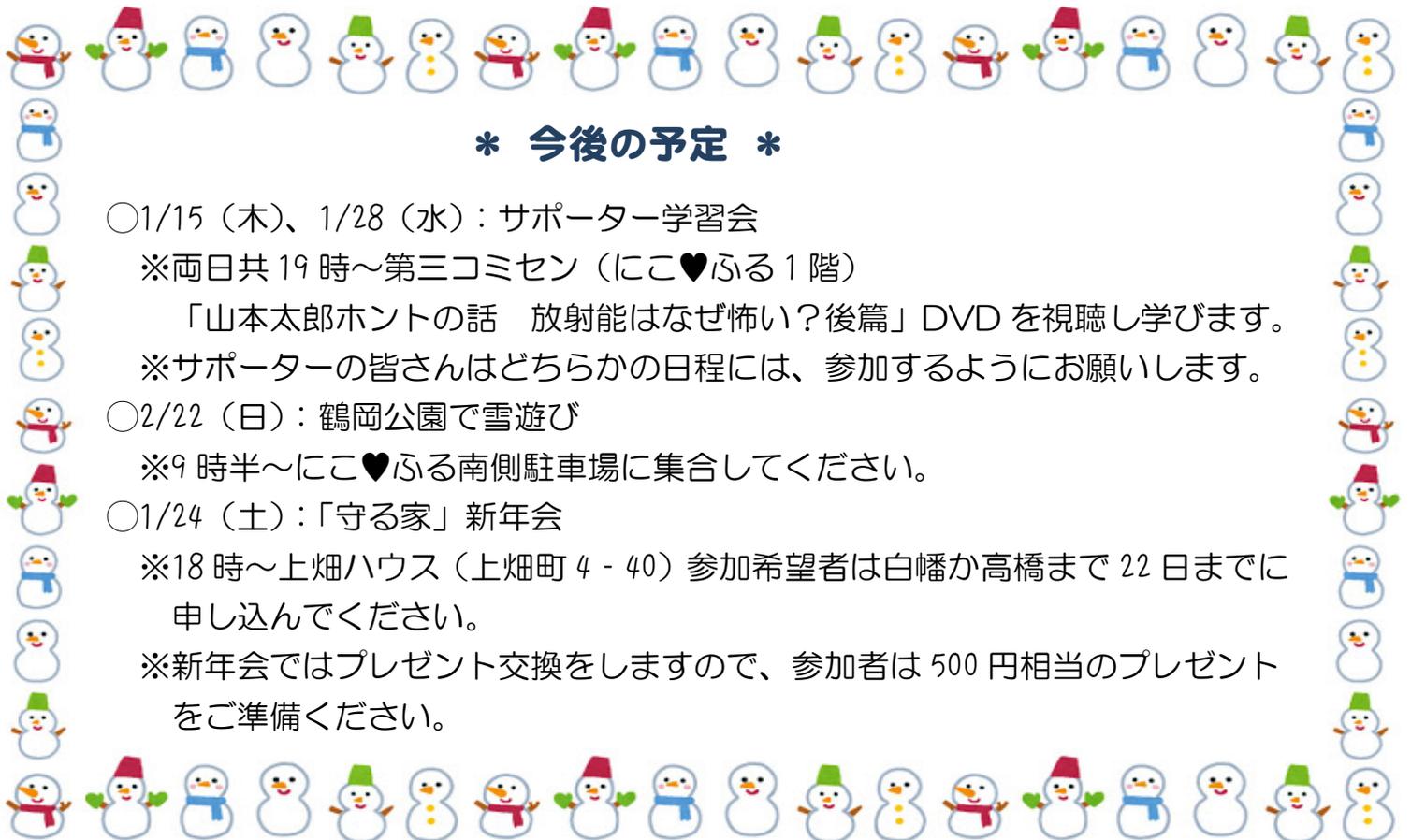
◎子どもを守りたい一心で県外に避難した家族が福島に戻って来た時、非常に冷たい視線にさらされること

◎子どもの甲状腺がんが100人を超えたことは、少しの報道はされたが、大人も子どもも体調を悪くしていることは事実だ。漫画「美味んぼ」がバッシングされたが、鼻血を出すという現象は実際には多々あるということ。

原発事故から時間が経過し、様々な意味で風化が進んでいることは事実ですが、私達は機会がある度に、実際に原発事故で被災した方々の生の声を聴きとり、今なお続く“フクシマの苦しみ”を忘れないで活動を続けていきたいと思います。



餅つき交流会の最後は、参加者全員で歌を歌ってお開きとなりました♪



* 今後の予定 *

○1/15（木）、1/28（水）：サポーター学習会

※両日共 19時～第三コミセン（にこ♥ふる1階）

「山本太郎ホントの話 放射能はなぜ怖い？後篇」DVDを視聴し学びます。

※サポーターの皆さんはどちらかの日程には、参加するようにお願いします。

○2/22（日）：鶴岡公園で雪遊び

※9時半～にこ♥ふる南側駐車場に集合してください。

○1/24（土）：「守る家」新年会

※18時～上畑ハウス（上畑町4-40）参加希望者は白幡か高橋まで22日までに申し込んでください。

※新年会ではプレゼント交換をしますので、参加者は500円相当のプレゼントをご準備ください。

お問い合わせ先：080-6023-7490（守る家事務局）